

第47回全国高等学校総合文化祭（2023かごしま総文）郷土芸能部門大会
慶 勇樹（2023かごしま総文郷土芸能部門代表委員）

1. はじめに

全国高等学校総合文化祭とは、昭和52年から都道府県が持ち回りで開催する高校生による芸術文化活動の祭典である。

令和5年は、「2023かごしま総文」と題し、第47回目の大会で、全都道府県開催の一巡目を締めくくる記念すべき大会だった。

総合開会式やパレード、19の規定部門と3つの協賛部門と全22部門の開催となった。

そのうち、奄美大島では郷土芸能部門大会を開催することとなり、部門部会長・代表委員・生徒実行委員長を奄美高校で担うこととなった。

2. 組織

2023かごしま総文では、部門を取り仕切る部門員と運営の協力をいただく運営協力員と2種類のスタッフで大会を開催することとなった。

部門委員については、県内8校の職員14名、6校の生徒43名で構成された。

離島のハンデもあり、会議を多く持つことが不可能だったため、職員も生徒もGoogle Meetを使い、頻りに意見交換を行った。

運営協力員については、奄美大島内の4校から職員78名、生徒249名に協力をいただき、総務・会場・救護・舞台進行・搬出入・受付・駐車場・出場校誘導・記録・練習場・生徒交流会・接待・放送・レンタル太鼓と15の係に分かれて業務に就いていただいた。



配布用の資料の準備



受付の準備



運営要員用の名札の準備



レンタル太鼓の準備

3. 大会開催

2023かごしま総文郷土芸能部門は、令和4年7月29日から30日午前中までリハーサルを実施し、その後、30日の午後から8月1日の2.5日間で本番を実施する計画だった。

これまで、3年間の準備期間を経て県内の運営要員で幾度となく会議を持ちながら計画を進めてきたが、台風6号（カーヌン）の影響により、7月31日の実施を見送ることが決定し、7月30日と8月1日の2日間で52団体の演奏を実施することとなった。

これまで、出演者の動線や楽器の搬入計画、練習会場の調整等において様々なシミュレーションのもと計画していたが、開催直前にプログラムを含む全ての計画を再度検討する必要があった。

しかし、全国事務局・部会長・運営要員・推進室・ホールスタッフ・音響業者・・・様々な方にアイデアを出していただき、どうにか2日間での実施計画を立てることができた。

また、出演団体においても、本番前日の部顧問会において、協部会長から全顧問に対して、台風の影響により、当初予定していた日程から2日開催になること、大会実施と生徒の安心安全を最優先した苦渋の決断であることを説明していただき、その場にいる全員の承諾を得ることができた。

ステージにおいては、どの団体の演奏を見ても、日々の練習の成果を十分に発揮し、真剣なまなざしで和太鼓を奏でる姿や、地域の伝承芸能を受け継ぎながら満面の笑みでステージ上を華麗に舞う姿を見ていると、感動という言葉では語り尽くせないステージパフォーマンスだった。

出演生徒はもちろんだが、顧問の先生方も演奏前後に臨機応変な対応をしていただき、本当に出演者・運営スタッフ全ての人が1つになり作り上げた全国総文祭になったと感じた。

ステージ終盤では、奄美高校郷土芸能部による地域交流演奏を行った。部長であり、生徒実行委員長でもある3年情報処理科 桑原 諒は入学から3年間総文祭に携わり、これまでの思いや実行委員長である責任を背負いながら最後の演奏に臨んだ。

演奏クライマックスにある、六調では、ステージの郷土芸能部だけでなく、会場にいる観客や出演を終えた出演者も一体となり六調を踊った。そのときの様子をステージから見ていた部員達は感動の涙をながしながら出演後、舞台袖に帰ってきた。



伝承芸能部門①



伝承芸能部門②



盛り上がる会場内の様子



生徒交流会の様子



発表後に会場前でミーティングをする様子



ぎふ総文実行委員会との引継の様子

4. さいごに

第47回全国高等学校総合文化祭は、全都道府県開催の一巡目を締めくくる記念すべき大会であった。

離島開催が決定した当初は、宿泊施設の問題や公共交通機関の問題、ホール施設・音響設備の問題等、問題が山積みになっていたが、奄美大島の様々な方々が協力していただき、1つ1つ問題を解消してくださった。

台風の影響で、帰郷できず奄美大島に残らざるを得なかった多くの方々がいることを知った島民が、少しでも奄美大島を楽しんでもらうよう、施設の開放や、宿泊しているホテルへ差し入れを持ってきていただいたり、たくさんのお気遣いをいただいた。

運営協力の先生方や生徒たちには、臨機応変な対応をお願いし、各係現場での判断をしていただき、大会の運営が滞りなく進むことができた。

今回の大会を通して、高校生が一生懸命に取り組む姿は、色々な人に感動を与え、関係する全ての人の心に一生忘れられることのできない大きな大きな思い出を与えることができたと思う。

本当に関係するみなさまのお陰で全国総合文化祭を終了することができました。
ありがたまりよーた。